

希望

チューリッヒ日本人学校便り

平成 28 年 9 月 27 日発行

第 20 号

発行人 校長 鈴木史良

持久走大会を終えて

—— 走りの質を高めた“感謝する心” ——

“伝えよう がんばったところと 感謝の気持ち”

“つらくても ベストをつくそう みんなでね”

上記に掲げたのは、児童生徒会執行部の子どもたちで考え、全校児童生徒に発表された「持久走大会具体目標」です。2学期が始まり、8月後半から約1か月間は体育の時間はもちろん、休み時間や放課後に、子どもたちは自主的に練習をおこなってきました。グラウンドに特設されたコースを走ると周回数が記録される「マラソン・カード」も励みとなり、60周でいっぱいになるカードを何枚も取り替えた子どももいたほどです。また、中学部の生徒の中には、放課後実際のコースを何回か走って本番に備えた子どもたちもありました。子どもたちはこのようにして練習を積み上げ、9月23日（金）の本番を迎えました。

当日は青空に薄雲が広がり、よいコンディションとなりました。全員でウスター城前の広場に行き、開会式で一人ひとり決意を述べました。

- ・4分台を出して1位になりたい。
- ・前の人を抜かして5分50秒を切りたい。
- ・平らな道でスピードを落とさないようにして、ゴール近くは速く走る。
- ・うでをよくふり、坂は大またで走りたい。
- ・2周目からペースが乱れるので気をつけたい。
- ・自分が走るのと同じくらい応援をがんばりたい。

つらくてもベストをつくそうという気持ちになるのはどうしてでしょうか。自己ベストを出したい、1位になりたいという気持ちももちろんですが、それだけではなく、必死で応援してくれるみんなの声、姿に励まされるからだと思います。自分を応援してくれて「ありがとう」という感謝の気持ちをもつことは大切なことです。そういう気持ち、心がさらに自分を高めてくれるのですね。開会式で「自分が走るのと同じくらい、応援をがんばりたい。」と決意を述べた生徒は中学部で1位の成績をとりました。すばらしい心掛けから、すばらしい走りが生まれたのです。児童生徒全員が執行部のつくったすばらしい具体目標を達成できました。つらくてもベストをつくして走った子どもたち、友達のを励まし大きな声で応援した



ウスター城前での開会式



小学部高学年のスタート!

子どもたちの姿はとても感動的でした。閉会式では子どもたち全員に完走証を授与し、健闘を称えました。ご参観いただいた保護者の皆様、ご多用にもかかわらず応援していただき、心より感謝申し上げます。

小1女子に新記録生まれる！

小学部1年生の H さんがこれまでの記録を更新し、新記録を樹立しました。

アップダウンのある1000mの持久走コースを4分43秒で走り切りました。これまでは2011年につくられた5分23秒という記録が最高でしたが、その記録をなんと40秒も短縮したのです。すばらしい記録をつくった H さん、おめでとうございます。



小学部低学年のスタート！

<本年度各学年男女別記録>

小学部1年(1000m)	男子	4分44秒、4分53秒	女子	4分43秒、5分27秒
2年(1000m)	女子	5分30秒		
3年(1400m)	女子	6分28秒		
4年(1400m)	男子	6分59秒	女子	7分06秒
5年(2000m)	女子	9分59秒		
6年(2000m)	男子	10分11秒	女子	10分25秒
中学部2年(2800m)	男子	15分36秒		
3年(2800m)	男子	13分35秒	女子	14分29秒、16分39秒

※ ほとんどの子どもたちが自己ベスト記録を達成しました。

10月の主要予定

ホームページでの公開はしていません。ご了承ください